ろうきん森の学校20周年記念シンポジウム

シンポジウムの概要

ろうきん森の学校の20周年を祝うシンポジウムが2025年3月14日に開催された。テーマは「里山コモンズ自然学校としてのろうきん森の学校の意義」である。

開会の挨拶

進行役はホールアース自然学校の大武が務め、労働金庫連合会の古川副理事長が挨拶を行った。

古川副理事長の挨拶

労働金庫連合会の古川副理事長は、20年間の活動を振り返り、28万人の参加者があったことを強調。

自然の中での活動が心身の健康に寄与することを述べ、今後も支援を続ける意向を示した。

全国事務局と5地区のリレー報告

各地区の活動報告

５地区の代表者が活動の成果や課題を報告し、地域との関わりの重要性を強調した。

参加者の感想

参加者からは、震災後のボランティア活動や自然体験の思い出が語られ、地域のつながりの大切さが再確認された。

里山コモンズ自然学校の意義

里山コモンズの概念

里山コモンズは、地域の人々が共同で管理し、自然を守りながら利用することを目指す概念である。

自然学校としての役割を果たしつつ、生物多様性の保全にも寄与する。

パネリストの意見

パネリストから、里山コモンズの考え方が地域の課題解決に役立つとし、今後の活動に期待を寄せた。

NPOと企業の関係

NPOの役割

NPOは地域の課題を発見し、解決に向けた活動を行う重要な存在である。

企業との連携を通じて、より多くの人々に影響を与えることができる。

企業との協働

企業はNPOと協力することで、社会的責任を果たしつつ、地域貢献を実現できる。

NPOは企業の持つリソースを活用し、活動の幅を広げることができる。

これからの展望

里山コモンズの未来

里山コモンズ自然学校として、地域の人々とのつながりを深め、持続可能な活動を続けることが求められる。

パネリストは、地域の価値を再認識し、次世代に引き継ぐことの重要性を強調した。

参加者の意識改革

パネリストは、地域の課題を共有し、解決に向けた意識を高めることが必要であると述べた。

これからの活動において、地域の人々が主体的に関わることが重要である。

結論

20周年を迎えて

ろうきん森の学校は、20年間の活動を通じて地域とのつながりを深め、多くの人々に影響を与えてきた。

今後も里山コモンズ自然学校の理念を基に、地域の課題解決に向けた活動を続けていくことが期待される。